

令和 9 年 度

第 4 学年 編入学生募集要項

編 入 学 案 内



出 願 期 間 令和 8 年 7 月 1 5 日 (水) ~ 7 月 3 1 日 (金)

(WEB エントリー及び書類提出)

学 力 検 査 及 び 面 接 令和 8 年 9 月 7 日 (月)

合 格 者 発 表 令和 8 年 9 月 1 1 日 (金)

独立行政法人国立高等専門学校機構

茨城工業高等専門学校

〒312-8508 茨城県ひたちなか市中根 8 6 6

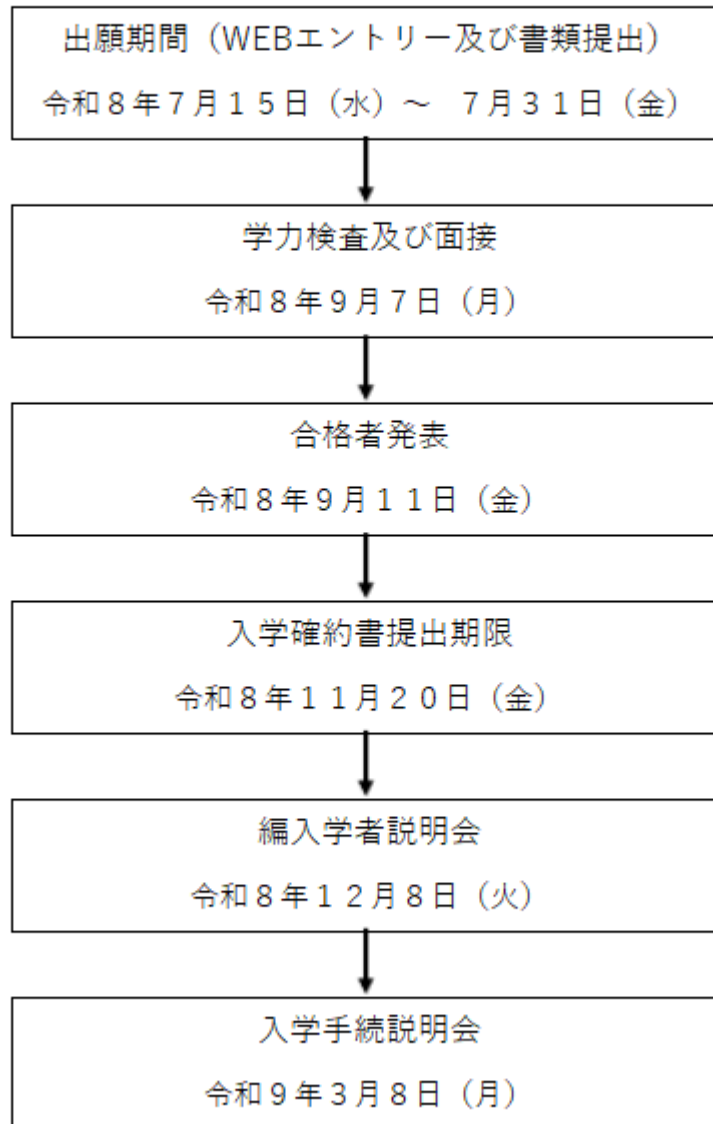
T E L (029) 271-2828 (学生課入試係)

M A I L nyuushi@ibaraki-ct.ac.jp



U R L <https://www.ibaraki-ct.ac.jp/>

出願から入学手続説明会までの流れ



※WEB 出願の詳細については、本校ホームページ【WEB 出願エントリーマニュアル】
をご確認ください。

目 次

令和9年度 編入学生募集要項

1	募集人員及び編入学年	1
2	出願資格	1
3	志望主専攻（系）	1
4	アドミッション・ポリシー（第4学年編入学者受入の方針）	1
5	出願手続	2
6	出願上の注意	3
7	選抜方法	3
8	合格者の発表	5
9	入学確約書の提出	5
10	編入学者説明会	5
11	個人情報の取り扱いについて	6
12	情報開示請求	6
13	入学者選抜に関する合理的配慮の提供に関して	6

編入学のための学校案内

1	茨城工業高等専門学校 の目的	8
2	国際創造工学科について	8
3	主専攻（系）の紹介	9
4	副専攻の紹介	10
5	本校の編入学生受け入れ制度	10
6	編入学後の教育	10
7	編入学時に要する経費	11
8	高等教育の修学支援新制度	11
9	奨学金制度	11
10	入学料、授業料免除制度	11
11	学校災害共済給付制度	11
12	その他	11

教育課程表	12
-------	----

令和9年度 第4学年編入学生募集要項

1 募集人員及び編入学年

学 科 〔主専攻（系）〕	募 集 人 員	編 入 学 年
国 際 創 造 工 学 科 〔 機 械 ・ 制 御 系 電 気 ・ 電 子 系 情 報 系 化 学 ・ 生 物 ・ 環 境 系 〕	各主専攻（系） 若干名	第 4 学 年

2 出願資格

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者又は令和9年3月卒業見込みの者
- (2) 大学入学資格検定に合格した者、高等学校卒業程度認定試験に合格した者又は令和9年3月までに高等学校卒業程度認定試験に合格見込みの者

3 志望主専攻（系）

本校のいずれの主専攻（系）でも志望することができます。

4 アドミッション・ポリシー（第4学年編入学生受入の方針）

(1) 求める入学志願者像

本校は「自律と創造」を教育理念として掲げ、豊かで持続可能な社会を実現するために、自律的にこれらの課題に取り組んでこれらを解決すると共に、新しい知識を生み出すことのできる創造性あふれる技術者を育成します。このため、高等学校からの編入学生に対しては、次のような人を求めています。

- ・英語、数学、理科あるいは工業などについての基礎知識を修得している人
- ・専門分野についての学力や技術を身につけたい人
- ・教養を深め、国際性豊かなコミュニケーション能力を身につけたい人
- ・専門知識や技術を生かし、社会に役立ちたいと考えている人
- ・自らの将来に向けて努力し、行動できる人

(2) 入学者選抜基準

編入学生の選抜は、学力検査（数学100点、英語100点、主専攻別科目150点の合計350点と面接50点）の得点が著しく低い検査項目（原則として40%未満の得点）がなく、かつ検査の総合得点が60%以上の得点である者の中から調査書を含めて総合判定して行います。

5 出願手続

本校では、WEB出願システムmiraicompassを導入しています。出願の際は必ず本校ホームページ【WEB出願エントリーマニュアル】をご確認ください。【WEB出願サイト】での手続き後に出願に必要な書類を本校へ提出してください。入学検定料は16,500円です。【WEB出願サイト】で支払処理をしてください。なお、支払処理する際に別途決済手数料がかかります。

- (1)出願期間 令和8年7月15日(水)9時から7月31日(金)16時まで
WEBエントリー
及び書類提出 書類については郵送のみの受付です。
令和8年7月31日(金)までの消印のあるものに限り受理します。
- (2)宛 先 茨城工業高等専門学校 学生課 入試係
〒312-8508 茨城県ひたちなか市中根866
TEL (029) 271-2828
- (3)出願書類等 出願者は、次の出願書類等を提出してください。

出 願 書 類 等	摘 要
写 真 票	【WEB 出願サイト】で出力したものを印刷し、「受験票」と「宛名票」を切り離し「写真票」のみを提出してください。【WEB 出願サイト】に出願用顔写真を登録していない場合には、写真貼付欄に写真(縦4cm×横3cm 令和8年6月以降に撮影した上半身・正面・無帽・無背景のもの)を貼付してください。なお、受験票は試験当日に持参いただきますので、大切に保管してください。
調 査 書	出願資格(1)の者は、在籍(出身)学校所定の用紙により学校長が作成した調査書を厳封したものを提出してください。 出願資格(2)のうち合格者は、大学入学資格検定又は高等学校卒業程度認定試験の「合格成績証明書」を提出してください。
卒 業 見 込 証 明 書 又 は 卒 業 証 明 書	出願資格(1)の者は、在籍(出身)学校所定の用紙により学校長が作成したものを提出してください。ただし、調査書に卒業見込証明欄又は卒業証明欄がある場合には提出不要です。 出願資格(2)のうち合格者は、大学入学資格検定又は高等学校卒業程度認定試験の「合格証明書」を提出してください。
外 部 検 定 に よ る 学 力 検 査 の 一 部 免 除 申 請 書	外部検定による評価を利用し、試験科目「英語」を免除申請する場合は、本校所定の様式に必要事項を記入し、評価を証明する書類(実用英語技能検定は「合格証明書」、GTEC4技能は「オフィシャルスコア証明書」または「スコアレポート」、GTEC3技能は「スコアレポート」)の原本及び写しを各1部添付して提出してください。 (ただし、学力選抜試験日の前々年度の4月1日以降に取得した評価とします。) 様式は本校ホームページからダウンロードしてください。 トップページ>入学案内>入試情報【編入学】 ※原本がないものは認めません。原本は確認後返却します。

返信用封筒	外部検定による学力検査の一部免除申請書を提出した場合に、評価を証明する書類の返送に使用します。郵便番号、住所、氏名を明記した角形2号（240mm×334mm）の封筒に140円分の郵便切手を貼付してください。
-------	---

6 出願上の注意

- (1) アドミッション・ポリシー（第4学年編入学者受入の方針）をよく理解した上で、出願してください。
- (2) 出願書類等は、必ず**簡易書留速達郵便**とし、封筒の表に「**編入学願書在中**」と**朱書**してください。
- (3) 【WEB出願サイト】で出願情報の登録と入学検定料の支払いを行い、出願に必要な書類を不備なく受付期間内に提出することで、出願の完了となりますが、書類に不備がある場合は受理できません。
本校にて出願書類に不備がないことを確認しましたら、受領連絡として、出願完了メールをお送りします。メールを確認し、「受験上の注意」をダウンロードしてください。メールが令和8年8月6日（木）までに届かないときは、学生課入試係まで問合せしてください。
- (4) 出願書類等に事実と異なる記載があった場合は、入学後でも入学を取り消すことがあります。
- (5) 受理した出願書類等及び入学検定料は返還しません。ただし、次のア、イの場合には返還請求ができます。ア：入学検定料を振り込んだが本校に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合。イ：入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合。これらの場合には、学生課入試係までご連絡ください。
- (6) 外部検定による学力検査の一部免除申請書を提出した者については、評価を証明する書類を返送しますので、令和8年8月6日（木）までに届かないときは、本校学生課入試係に問合せしてください。

7 選抜方法

編入学生の選抜は、学力検査（数学100点、英語100点、主専攻別科目150点の合計350点と面接50点）の得点が著しく低い検査項目（原則として40%未満の得点）がなく、かつ検査の総合点が60%以上の得点である者の中から調査書を含めて総合判定して行います。

- (1) 学力検査・面接の日時及び場所
 - ① 検査日：令和8年9月7日（月）

② 時間及び場所

期 日	区 分		時 間	場 所
9月7日(月)	学力検査	英 語	9:00～10:00	茨城工業高等専門学校
		主専攻別科目	10:25～11:55	
		数 学	12:55～13:55	
	面 接	14:15～		

(2) 学力検査科目

学力検査科目は、共通科目（英語、数学）と主専攻別科目があります。共通科目と主専攻別科目の詳細は次の「共通科目、主専攻別科目の出題科目名及び範囲」のとおりです。

なお、出題科目の範囲は、令和8年度の高等学校第3学年に適用される学習指導要領に基づきます。

共通科目、主専攻別科目の出題科目名及び範囲

志望主専攻	区分	科 目 名	範 囲	備 考
機械・制御系	共通科目	英語	コミュニケーション英語Ⅰ， コミュニケーション英語Ⅱの全範囲	
		数学	数学Ⅰ， 数学Ⅱの全範囲	
	主専攻別科目	物理	物理基礎の全範囲	
電気・電子系	共通科目	英語	コミュニケーション英語Ⅰ， コミュニケーション英語Ⅱの全範囲	
		数学	数学Ⅰ， 数学Ⅱの全範囲	
	主専攻別科目	物理	物理基礎の全範囲	
情報系	共通科目	英語	コミュニケーション英語Ⅰ， コミュニケーション英語Ⅱの全範囲	
		数学	数学Ⅰ， 数学Ⅱの全範囲	
	主専攻別科目	情報	プログラミング，フローチャート，アルゴリズム， 2進数・10進数・16進数，論理演算，ネットワーク， コンピュータの構成	
化学・生物 ・環境系	共通科目	英語	コミュニケーション英語Ⅰ， コミュニケーション英語Ⅱの全範囲	
		数学	数学Ⅰ， 数学Ⅱの全範囲	
	主専攻別科目	化学	化学基礎及び化学の全範囲	電卓を貸与

※ 受験上の注意

- ① 9月7日(月)は、8時30分(外部検定による学力検査「英語」免除者は、9時30分)までに本校の指定する場所に集合し、係員の指示に従ってください。
 - ② 受験票、鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム及び鉛筆削りを持参してください。
 - ③ 携帯電話(スマートフォン等)、ウェアラブル端末(スマートウォッチ等)、その他の用具(コンパス・定規・下敷き等)は、検査室に持ち込めません。
 - ④ 昼食を持参してください。
- (3) 試験科目の一部免除申請

外部検定による評価を利用する者は、試験科目「英語」を免除申請することができます。ただし、学力選抜試験日を基準に、前々年度の4月1日以降に取得した評価とします。

外部検定による評価の換算方法は、次のとおりです。

外 部 検 定			換算点
実用英語技能検定	GTEC 4技能 (CBT・検定版・アセスメント版)	GTEC 3技能 (アセスメント版)	
準1級以上	1180 以上	860 以上	100 点
2 級	930 - 1179	670 - 859	85 点
準2 級	680 - 929	500 - 669	70 点

実用英語技能検定：(公財)日本英語検定協会実施

GTECテスト：(株)ベネッセコーポレーション実施

8 合格者の発表

令和8年9月11日(金)11時以降、合格者の受験番号を、本校ホームページに掲載します。なお、合格者には文書で通知します。また、2出願資格(1)の者については、在籍(出身)学校長宛に可否結果を文書で通知します。

(電話等による可否の問い合わせには応じられません。)

9 入学確約書の提出

「合格通知」を受けた者は、令和8年11月20日(金)16時(郵送の場合を含む。)までに「入学確約書」を提出してください。この期限までに入学確約書を提出しない者は、入学の意志がないものとして取り扱います。

10 編入学者説明会

令和8年12月8日(火)15時30分から本校で編入学者説明会を実施しますので、入学確約書提出者は来校してください。

また、令和9年3月8日(月)に入学手続説明会を実施します。日程の詳細は後日連絡します。

11 個人情報の取り扱いについて

出願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜の資料及び次の目的にのみ利用します。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料，授業料の免除申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

12 情報開示請求

入学試験個人成績の開示請求手続きについては、本校総務課にお問い合わせください。

TEL (029) 271-2807

13 入学者選抜に関する合理的配慮の提供に関して

茨城工業高等専門学校では、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」及び、「独立行政法人国立高等専門学校機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に則り、障害等による支援ニーズのある学生に対して、受験上または修学上の合理的配慮の提供を行っています。

入学者選抜において障害等を理由とした合理的配慮の提供を希望する者は、早めに茨城工業高等専門学校学生課入試係までご相談ください。なお、合理的配慮の提供には準備に時間がかかることもあるため、令和8年7月10日（金）を過ぎてからの相談及び申請では準備期間が短くなり、希望する合理的配慮を受けられず、安心して試験を受けられなくなる可能性があることに注意してください。

必要に応じて、出願者、出願者の保護者等及び在籍する学校関係者に対して、相談された内容について質問する場合がありますが、合理的配慮に関する申請及び問い合わせ内容は、入学者選抜の可否判定には一切影響ありません。

入試の公平性を担保するため、合理的配慮提供の根拠となる資料の提出を求める場合があります。必要となる根拠資料に関しては、文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）」によって示されている、1)障害者手帳の種別・等級・区分認定、2)適切な医学的診断基準に基づいた診断書、3)標準化された心理検査等の結果、4)学内外の専門家の所見、5)高等学校、特別支援学校等の大学等入学前の支援状況に関する資料、6)本人が自らの障害の状況を客観的に把握・分析した説明資料等が該当します。

根拠資料に関しては、提出の要不要についても学生課入試係までご相談ください。ご提出いただく根拠資料としての条件を満たしているかどうか、学生課入試係において確認いたします。

満たしていない場合は、その理由を明示したうえで再提出を求めることがあります。

(お願い)

入学後に修学上の合理的配慮が必要な場合には、合理的配慮提供のための準備を十分に行うために、出願前の可能な限り早い段階で事前相談を受けられることをお勧めします。入試後、または入学後に合理的配慮に関して初めて申請なされると、修学に必要な支援を十分に受けられなくなる可能性があります。なお、事前相談を受けられても、入学者選抜の合否判定には一切影響ありません。

相談窓口：茨城工業高等専門学校 学生課入試係

〒312-8508 茨城県ひたちなか市中根866

TEL (029)271-2828

MAIL nyuushi@ibaraki-ct.ac.jp

編入学のための学校案内

1 茨城工業高等専門学校の目的

本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。また、前述の目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

教育理念

科学技術の進歩は我々に豊かな社会を提供する一方、社会との関わりをますます深化・多様化させる中で、これまで我々が経験したことのないような新たな課題をもたらしている。本校は「**自律と創造**」を教育理念として掲げ、豊かで持続可能な社会を実現するために、自律的にこれらの課題に取り組んでこれらを解決すると共に、新しい知識を生み出すことのできる創造性あふれる技術者を育成する。

2 国際創造工学科について

平成 29 年度に、これまでの 5 学科（機械システム工学科，電子制御工学科，電気電子システム工学科，電子情報工学科，物質工学科）を国際創造工学科の 1 学科へ統合しました。グローバル化への対応に力を入れた教育を行うと共に、複数の分野を幅広く学ぶことで世界で活躍できるグローバル・エンジニアを育成します。

1 年生は、共通カリキュラムのもと、機械・制御工学，電気・電子工学，情報工学，化学・生物・環境の専門分野に関する授業を受けてから、第 2 学年進級時に、自分が学びたい専門分野として 4 つの主専攻（機械・制御系，電気・電子系，情報系，化学・生物・環境系）の中から 1 つを選択し、学年が進行するにつれて深い専門知識と高度な技術を学びます。

さらに、主専攻とは異なる分野を副専攻として 1 つ選択し、その分野の基本的な知識を学びます。

グローバル化に力を入れた教育では、語学力だけでなく、他国の文化や価値観等を学び、地球規模の課題を考えることができる能力や他国の人々と一緒に課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力等を身につけます。副専攻には、この教育にさらに力を入れたグローバル副専攻も設けています。

国際創造工学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）

国際創造工学科では、社会人として必要な教養と人間性、社会性、技術者として必要な工学の専門知識を身に付け、国際社会で幅広い課題に意欲的に取り組むことのできる、創造性豊かでたくましい人材を育成する。そのために本校に在籍して以下のような能力を身に付け、独立行政法人国立高等専門学校機構の「モデルコアカリキュラム」に基づいた教育課程で定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

卒業までに修得する能力（学習・教育目標）

- (A) 豊かな教養と高い倫理観をそなえ、自立した社会人として行動できるようになるための人間性，社会性
- (B) 工学の理念に基づいた専門工学の基礎知識
- (C) 専門工学と人文・社会科学の知識・技術を総合的に活用し、自らが立てた課題を解決できる課題解決力
- (D) 国際的な視野に立って他者と協働しながら社会的課題に取り組むことのできる、姿勢と行動力およびコミュニケーション能力

3 主専攻（系）の紹介

○ 機械・制御系

現代の技術者には、情報通信技術（ICT）や人工知能（AI）といった最新の技術を生かせる提案や創出が求められています。これまでの機械はおもに動力を利用して一定の運動を起こし、有用な仕事をする装置でした。しかし、これから技術者に求められるのは、エレクトロニクスやコンピュータなどによる先進的な制御技術を用いて高度に知能化・システム化された革新的な機械を作り出す能力です。

本系では、これまで機械システム工学科と電子制御工学科でそれぞれ別々に行われていた教育課程を整理・統合して、社会のニーズに対応する機械系、制御系の発展的な科目群に再構成しました。さらに、共通科目や副専攻体制をとることで、次世代の知能機械や機械システムの開発や生産に係わる幅広い分野を担うことができる人材育成を目指していきます。

また他方で、世界の生産拠点となりつつあるアジア諸国に高い技術力と柔軟な発想で国際社会に貢献できる人材を送り出すことも求められています。本校はこれまでも近隣に位置する大手電機メーカーをはじめとして、関連会社に多くの人材を送り、地域社会に貢献してきた実績があります。今後も国内外を問わず、確かな知識と技術を身に付け、高付加価値のある製品づくりを担う技術者を輩出できるように教育内容をさらに工夫していきます。

○ 電気・電子系

電気・電子系の技術者は、電力会社や電機メーカーだけでなく自動車、医療、鉄鋼、さらには化学、薬品関連など、社会のあらゆる分野で必要とされています。

たとえば、自動車、先端医療機器などの分野においても、従来は電気・電子系の対象でなかった製品にも最新の電気・電子・情報・通信技術が搭載され、多彩な機能を有するようになりました。また様々な製品を生み出す工場の生産ラインにおいても、電気・電子技術を用いて高度に制御されています。一方、産業分野はもちろん一般家庭においても、太陽光発電、風力発電など再生可能エネルギーと言われるクリーンなエネルギーの供給がますます増えており、これらを支えるため電気・電子技術は重要な役割を果たしています。

このように、多方面で急速に発展し続けている電気・電子技術を効率よく修得できるよう、電気・電子、電子制御、情報、通信の4つの分野科目を1つの系に統合しました。本系では、2学年で電気電子工学の基礎科目を、3学年時は電子回路、電磁気学、電子工学、コンピュータとデジタル回路の基本となる専門科目を、4学年以降はネットワークのハードウェア、電子制御、無線通信、パワーエレクトロニクスや再生可能エネルギーなどに関する専門性の高い科目を学びます。低学年からアクティブ学習法を導入し、少人数によるゼミナール授業、実習、工学実験を通して、クラスメイトと協力し合い自ら学び力を修得するように授業内容が構成されています。急速に進化している現社会の要請に応えられる高いコミュニケーション能力を有し、創造性豊富な専門知識を兼ね備えた人材を育成します。

○ 情報系

今日、コンピュータやインターネットは私たちの生活に欠かせない存在です。特に、SNSやインターネットショッピングなどは、多くの人にとって日常生活を送る上での身近なツールといえます。また、近年、日常生活で使用する身近なものをインターネットに接続するIoT技術を利用したサービスや、これらのサービスの普及によりインターネット上に分散さ

れた大量のデータ（ビックデータ）を活用する技術などが注目を浴びています。このようなインターネットを利用した様々な新サービスを作り出す人材が今後更に求められます。

情報系では、このような社会のニーズに応える人材を育てるために、情報技術分野の全般について授業や実験を通して基礎から応用までを学びます。全ての学年でコンピュータを使った授業があるのが情報系の特色のひとつです。低学年では「離散数学」「情報理論」「コンピュータアーキテクチャ」などの授業を通して基礎知識を身につけます。高学年では「ネットワーク」「コンピュータグラフィックス」「データベース」「情報セキュリティ」などのより専門性の高い科目を学び、情報技術分野についての専門知識と技術力の強化を図ります。実験や卒業研究では少人数教育を重視し、講義で学んだ理論や知識の定着を図り、「考える力」「創造力」「表現力」「コミュニケーション力」をもった実践的技術者、情報技術分野で社会に貢献できる人材を育成します。

○ 化学・生物・環境系

現在私たちは、環境破壊、エネルギー、地球温暖化、人口増加等の問題を抱えており、その解決のために新しい機能性材料の開発や地球にやさしい化学技術、持続可能な発展のための新技術の創造が不可欠となっています。本系は、このような時代の要請に応えるために、応用化学分野に生物科学や環境科学を加えた系であり、複合した領域の学修成果を基にした柔軟な思考力と創造性に満ちた、しかも人間性豊かな科学技術者を育成することを目指しています。

本系では、主専攻専門科目を無理なく学べるように授業科目が構成されています。また、第4学年以降の教育内容は、化学系基幹科目を学習した上で、応用化学、材料工学、生物資源工学、環境保全工学などの自分に合った進路に対応できるような分野の勉強を積み上げていくことができるようになっています。

さらに、実験実習や卒業研究を通して研究者・技術者として研究能力を高め、新しい技術や製品開発に応用発展ができるような次世代産業で活躍できる人材を育成します。

4 副専攻の紹介

機械・制御系、電気・電子系、情報系、化学・生物・環境系では、その分野の基本的な内容を幅広く学びます。グローバル系では基礎を英語で学べる科目を設置するとともに、国内外の大学に在籍する外国籍学生と一緒に課題解決に向けた方策を討議するなどの体験学習なども行います。なお、副専攻の配属は入試成績をもとに、編入学者説明会後に決定します。

5 本校の編入学生受け入れ制度

第4学年への編入学は、高等学校及び中等教育学校卒業生、大学入学資格検定及び高等学校卒業程度認定試験に合格した者に門戸を開いて、より優れた工業技術者を養成するための制度です。卒業生には「準学士」の称号が与えられます。

6 編入学後の教育

(1) 修業年数

本校の修業年数は5年間ですが、第4学年編入学生は第4学年から学習しますので2年間です。

(2) 教育課程

本校の教育課程は、別表のとおりです。第4学年編入学生は、第3学年までの単位を既に修得したものとして認定され、第4学年以降の科目を履修します。

7 編入学時に要する経費

入学料 84,600円

授業料 年額 234,600円の前期分 117,300円

なお、このほかに後援会費、学生会費、研修旅行費、教科書及び教材等の経費を必要とします。

※ 上記納入金額は予定額であり、入学時又は在学中に入学料及び授業料の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料が適用されます。

8 高等教育の修学支援新制度

この制度は、世帯収入や資産の要件を満たしており、学ぶ意欲のある学生に対し、授業料・入学金の免除または減額（授業料等減免）及び給付型奨学金の支給の2つの支援を行うものです。

詳しくは文部科学省ホームページ（高等教育の修学支援新制度）をご確認ください。募集は通常4月にあります。

また、高等学校等で予約採用を申請し、採用が決まった方は、入学手続説明会の折などに本校学生課学生支援・寮務係にお知らせください。

9 奨学金制度

日本学生支援機構が実施する貸与奨学金の他、各自治体、財団等が行う奨学金があります。本校ホームページ（<https://www.ibaraki-ct.ac.jp/admission/support/>）に奨学金に関する案内を掲載しております。

10 入学料、授業料免除制度

入学前1年以内において、本校に入学する者の学資を主として負担している者が死亡、又は本校に入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合、その他学校長が相当と認める事由がある場合、入学料免除制度、授業料免除制度それぞれに申請を行うことができます。募集は4月上旬及び9月に本校ホームページ等でお知らせします。

※ 入学料、授業料とも、納入期日までに納付が困難なときに納期を遅らせる徴収猶予制度もあります。

11 学校災害共済給付制度（日本スポーツ振興センター）

この制度は、学校の安全の普及・充実に努めるとともに、授業中、課外活動、登下校時など学校の管理下における学生の負傷、疾病、障害又は死亡に関して必要な給付を行うものです。本校では、学生全員が加入しています。

12 その他

本校は3年生までを基本とした学生寮としているため、編入学生は基本的に受け入れていません。ただし、特別な事情がある編入学生は入寮できる場合がありますので、入寮を希望する場合は本校学生課学生支援・寮務係に問い合わせください。

その他の情報については、本校ホームページ（<https://www.ibaraki-ct.ac.jp/>）に最新の情報を掲載していますので、そちらをご覧ください。

別表第1 一般科目 平成31年度以降入学生に係る教育課程

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					学修単位	備考
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	国語 I	3	3					※1	
	国語 II	3						※1	
	国語 III	2	2					※1	
	国語 IV	2						※1	
	現代社会 I	2						※1	
	現代社会 II	2						※1	
	現代社会 III	2						※1	
	現代社会 IV	2						※1	
	国際情勢	2		2				※1	
	Global Awareness	2		2				※1	
選択科目	基礎数学 I	4							
	基礎数学 II	3							
	基礎数学 III	3							
	自然科学 I	7	3	4					
	自然科学 II	4	2	2					
	自然科学 III	4	2	2					
	Global Life Science	1	1						
	日本事情 I	1							
	日本事情 II	6	2	2					
	日本事情 III	4	4						
副専攻科目	英会話 I	3	1	1	1				
	英会話 II	3							
	英会話 III	3							
	英会話 IV	3							
	英語表現 I	2							
	英語表現 II	2							
	知的財産論	1							
	キャリアデザイン	1							
	経営概論	2							
	現代の社会 I	2							
選択科目	現代の社会 II	2							
	歴史と文化 I	2							
	歴史と文化 II	2							
	人間と世界 I	2							
	人間と世界 II	2							
	現代の社会 III	2							
	現代の社会 IV	2							
	人間と世界 III	2							
	歴史と文化 III	2							
	実践英語 I	2							
副専攻科目	実践英語 II	2							
	実践英語 III	2							
	実践英語 IV	2							
	実践英語 V	2							
	実践英語 VI	2							
	実践英語 VII	2							
	実践英語 VIII	2							
	実践英語 IX	2							
	実践英語 X	2							
	実践英語 XI	2							
副専攻科目	実践英語 XII	2							
	実践英語 XIII	2							
	実践英語 XIV	2							
	実践英語 XV	2							
	実践英語 XVI	2							
	実践英語 XVII	2							
	実践英語 XVIII	2							
	実践英語 XIX	2							
	実践英語 XX	2							
	実践英語 XXI	2							

※1 外国人留学生に対して開講
 ※2 実践英語、社会貢献、グローバル研修、特別学修は単位数に含めていない。
 学修単位 I は、1単位＝授業30時間＋自学自習15時間
 学修単位 II は、1単位＝授業15時間＋自学自習30時間

別表第2 副専攻科目と共通科目 平成29年度以降入学生に係る教育課程

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					学修単位	備考
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	機械・制御基礎 I	2		2					
	機械・制御基礎 II	2			2				
	機械工学概論	2				2		8単位以上修得	
	制御工学概論	2				2		8単位以上修得	
	力学	2				2		8単位以上修得	
	エネルギー工学	2				2		8単位以上修得	
	電気電子基礎学	2		2					
	電気電子回路基礎	2			2				
	電子工学概論	2				2		8単位以上修得	
	通信システム工学概論	2				2		8単位以上修得	
副専攻科目	コンピュータハードウェア	2				2			
	電気機器概論	2				2			
	コンピュータプログラミング I	2				2			
	コンピュータプログラミング II	2				2			
	プログラミング応用	2				2			
	統計解析法	2				2			
	デジタル信号処理	2				2			
	コンピュータグラフィックス	2				2			
	化学通論 I	2		2					
	化学通論 II	2			2				
副専攻科目	生物科学概論	2				2		8単位以上修得	
	環境科学概論	2				2		8単位以上修得	
	材料科学概論	2				2		8単位以上修得	
	化学工学概論	2				2		8単位以上修得	
	Global Science	2		2					
	Global Presentation	1			1				
	Global Writing	1			1				
	Project Management	2				2			
	Applied Science	2				2			
	Physical Mathematics	2				2			
副専攻科目	Quantum Chemistry	2				2			
	Global PBL	1				1		グローバル副専攻で必修	
	企業実習	1				1		夏季休業中、学年末休業中	
	開設単位計	62		10	10	22	22		
	修得可能単位数	14		2	2	6	6		

学修単位 I は、1単位＝授業30時間＋自学自習15時間
 学修単位 II は、1単位＝授業15時間＋自学自習30時間

化学・生物・環境系科目 平成29年度以降入学生に係る教育課程

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					単位数	学修単位	備考
			1年	2年	3年	4年	5年			
必修科目	国際創造工学基礎	2					2		4系共通科目	
	情報リテラシー	1					1		4系共通科目	
	応用物理	1					1			
	分析化学	1					1			
	有機化学	1					1			
	物理化学	1					1			
	有機化学	1					1			
	物理化学	1					1			
	機器分析	2					2			
	情報処理	1					1			
	化学ゼミナール	2					2			
	環境化学基礎	1					1			
	生物化学基礎	2					2			
	物質工学実験Ⅰ	12					12			
	物質工学実験Ⅱ	2					2			
物質工学実験Ⅲ	2					2		1科目修得(コース別)		
課題研究Ⅰ	1					1				
卒業研究Ⅱ	9					9				
開設単位数計	49	3	10	15	6	15	6	15		
修得単位数計	47	3	10	15	6	13				
応用数学Ⅰ	2					2				
応用物理Ⅱ	2					2				
物質工学英語演習Ⅰ	1					1				
有機化学Ⅰ	1					1				
無機化学Ⅰ	2					2				
物理化学Ⅰ	2					2				
有機化学Ⅱ	2					2				
物理化学Ⅱ	2					2				
分析化学Ⅰ	2					2				
物理化学Ⅲ	2					2				
有機化学Ⅲ	2					2				
化学工学Ⅱ	2					2				
応用微生物工学	2					2				
応用数学Ⅱ	1					1				
応用化学演習Ⅰ	1					1				
応用化学演習Ⅱ	1					1				
物質工学実用数学Ⅰ	1					1				
有機合成化学Ⅰ	1					1				
環境化学Ⅰ	1					1				
放射化学Ⅰ	1					1				
安全工学Ⅰ	1					1				
反応理論化学Ⅱ	2					2				
無機材料工学Ⅱ	2					2				
高分子材料工学Ⅱ	2					2				
生体資源工学Ⅱ	2					2				
環境保全工学Ⅱ	2					2				
特別旭大等での履修科目						4以内		単位の認定は別に定める		
学修知識・技能審査										
開設単位数計※	39					39				
修得可能単位数計※	88					88				
一般科目※	84					84				
副専攻科目※	12					12				
共通科目※	2					2				
主専攻科目※	86					86				
合計	184					184				

※ 特別学修は単位数に含めていない。
 修得可能単位数の上段は、その学年において修得可能な単位数、下段は、その枠内で修得可能な単位数を示す。
 学修単位Ⅰは、1単位=授業30時間+自学自習15時間
 学修単位Ⅱは、1単位=授業15時間+自学自習30時間

情報系科目 平成29年度以降入学生に係る教育課程

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					単位数	学修単位	備考
			1年	2年	3年	4年	5年			
必修科目	国際創造工学基礎	2					2		4系共通科目	
	情報リテラシー	1					1		4系共通科目	
	応用物理	1					1			
	分析化学	1					1			
	有機化学	1					1			
	物理化学	1					1			
	有機化学	1					1			
	物理化学	1					1			
	機器分析	2					2			
	情報処理	1					1			
	化学ゼミナール	2					2			
	環境化学基礎	1					1			
	生物化学基礎	2					2			
	物質工学実験Ⅰ	12					12			
	物質工学実験Ⅱ	2					2			
物質工学実験Ⅲ	2					2				
課題研究Ⅰ	1					1				
卒業研究Ⅱ	9					9				
開設単位数計	46	3	10	15	5	13				
修得単位数計	46	3	10	15	5	13				
応用数学Ⅰ	2					2				
応用物理Ⅱ	2					2				
物質工学英語演習Ⅰ	1					1				
有機化学Ⅰ	1					1				
無機化学Ⅰ	2					2				
物理化学Ⅰ	2					2				
有機化学Ⅱ	2					2				
物理化学Ⅱ	2					2				
分析化学Ⅰ	2					2				
物理化学Ⅲ	2					2				
有機化学Ⅲ	2					2				
化学工学Ⅱ	2					2				
応用微生物工学	2					2				
応用数学Ⅱ	1					1				
応用化学演習Ⅰ	1					1				
応用化学演習Ⅱ	1					1				
物質工学実用数学Ⅰ	1					1				
有機合成化学Ⅰ	1					1				
環境化学Ⅰ	1					1				
放射化学Ⅰ	1					1				
安全工学Ⅰ	1					1				
反応理論化学Ⅱ	2					2				
無機材料工学Ⅱ	2					2				
高分子材料工学Ⅱ	2					2				
生体資源工学Ⅱ	2					2				
環境保全工学Ⅱ	2					2				
特別旭大等での履修科目						4以内		単位の認定は別に定める		
学修知識・技能審査										
開設単位数計※	37					37				
修得可能単位数計※	83					83				
一般科目※	84					84				
副専攻科目※	12					12				
共通科目※	2					2				
主専攻科目※	83					83				
合計	181					181				

※ 4年から5年への進級要件として、4年次の主要選択科目から18単位以上修得することとする。
 特別学修は単位数に含めていない。
 修得可能単位数の上段は、その学年において修得可能な単位数、下段は、その枠内で修得可能な単位数を示す。
 学修単位Ⅰは、1単位=授業30時間+自学自習15時間
 学修単位Ⅱは、1単位=授業15時間+自学自習30時間

